

桐原 純男議員



Q 老朽化した加工施設の整備は

A 役場全体で考えていきたい

備し、加工、販売まで指導できる技術者を置いて起業につながるような環境を整える必要があるのではないかと。農政課長

同施設は昭和62年開所された物産品の製造所。現在は、主に味噌の製造を、村内の42団体が利用された。老朽化が進んでおり、修繕が追い付かない状況。今後新築や、村内にある個人の施設とのタイアップ、中学校や庁舎などの跡地利用も含め役場全体で考えていきたい。

桐原議員
村民の利用者が多い、加工施設、久木野にあるふるさとセンター。この施設は、古くて、狭い、排水等も悪いとの話も聞く。かなり多くの団体が利用されているようだが、どのような実績があるのか。6次産業化への足掛かりとなる施設だと思ふ。庁舎や中学校跡地利用、新築も含め、早急に整



老朽化したふるさとセンター

Q 3セクの今後は…(株)はくすい問題は

A 統合したい…調査の結果で協議する

桐原議員

村が出資している第3セクターの会社が株式会社くぎの、ちょうど、はくすいと3社ある。毎年、指定管理料と修理費等の維持費合計で毎年約1億円が村から支出されている。地方創生特別委員会の中でも、会社統合や組織の刷新、役員体制の見直し、施設の整理、経費の削減等を議論されているが、今後、どう計画されているのか。また先日議員に送付された(株)はくすいに対する告発文によると、セクハラ、パワハラ、

不明朗会計、その他もろもろ事実ならひどい話である。弱い立場の従業員が告発したこと、非常に重いものがある。村出資90%、事実上、村が経営しているのと同じだが、役員体制はどうなっているのか。そして、この件についてどう認識しておられるか。内部監査のみならず、外部調査委員会等設置され、事実か否かしっかり調査して、村民への信頼回復と、説明責任を果たしていただきたい。なぜこうなったかなどの検証が必要ではないか。

企画観光課長

(株)はくすいについては、会長が村長。社長、副社長、総務課長、企画観光課長、株主から2人が取締役。監査役員が2人総数9名。(株)ちようよう・(株)くぎのは、村長が会長、社長、企画観光課長と総務課長が取締役、監査役員

が2人計6名。(株)はくすいに対しての文書は、4点について調査確認依頼が2月4日に村に届き、受け取っている。現在監査役が調査を行っており、まだ結果は出ていない。また3セクの運営については、いろいろ考えがあるが、株主総会において判断されると考える。

村長

(株)はくすい問題は、匿名の内部告発で事実か、しっかり確認することが大事。社長、副社長の間の調査では信用できないので、村の監査委員に状況確認を依頼している。現在その最中で、解明確認されれば、役員会で協議したい。また3セクの運営については、公的な面で意見を挟むのは問題。運営については任せていく考えに変わりはしない。



統合が望まれる村内の第3セクター